TRIPLE TREE
RACING TEAM

Triple Tree Media Information　2026年11月21日

予期せぬ予選の赤旗中断、そして3グリッド降格のペナルティ。しかし諦めないJujuは決勝18位でチェッカー。



結成2年目を迎えた『HAZAMA ANDO Triple Tree Racing』は、11月21日（土）、2026年全日本スーパーフォーミュラ選手権・第11戦に参戦いたしました。今大会は土・日連戦のダブルヘッダーで、寒さは厳しいものの、快晴、ドライコンディションでの第11戦を迎えました。

HAZAMA ANDO Triple Tree Racingの10号車をドライブするJujuは、全24台が2組に分かれて争われる予選B組に出走し、途中アクシデントによる赤旗中断、そして残り時間3分10秒から再スタートという厳しい状況の中で、1分40秒028をマークし、B組10位。しかし赤旗中断中に冷風でタイヤが冷えるのを避けるために別のタイヤを横に置いたことがペナルティの対象となり3グリッド降格。決勝は22番手スタートとなりました。

「予選A組のタイムが昨日に比べて全然遅かったので、このコンディションを考え、予定より1周多くウォームアップしてアタックに挑む賭けに出たのですが、まさにアタックに入ろうとするタイミングで赤旗が出てしまいました。再開後、残り時間3分

10 秒では、1 周温めて即アタックしかなく、残念な結果となりました」と野田英樹監督。Juju も予選 22 番手という悔しい結果に、「悔しいですが、諦めることなく決勝は何台かスタートで抜いて、1 台でも前でチェッカーを受けます」と応援に駆けつけてくれたスポンサーやファンの前で、その決意を口にしました。

午後 2 時 25 分、フォーメーションラップが開始されました。気温 14℃、路面温度 22℃というコンディションの中、31 周レースがスタートしました。レコノンサスラップでクラッチに違和感を感じ、エンジニアに訴えていた Juju でしたが、やはりいつものような好スタートが切れず、1 周目は 24 番手でコントロールラインを通過。マシンのフィーリングには問題が無いことを確認すると、追撃を開始しました。

4 周目に 23 位、そして 8 周目にピットがオープンになって 4 台がタイヤ交換にピットインする間に 19 番手へと浮上。1 コーナーでアウトから豪快に前を行くマシンをオーバーテイクし、さらに前を目指します。10 周目に 14 番手まで浮上したタイミングで 1 台のマシンが単独スピンしてストップしたため、セーフティーカーが導入されました。

野田英樹監督が即座に Juju に無線でピットインを指示すると、「みんな、勝負だよ！」と Juju が全員の士気を高め、ピットイン。メカニックたちも素晴しい仕事でその気持ちに応えてくれました。

レースはその後、14 周目から再スタートとなり、Juju は前を行くマシンを追いつつ、後方から OTS を使用して迫るマシンを抑えながらの激走を続けました。ダンロップコーナーのアウト側からオーバーテイクを見せたり、スプーンアウト側から迫る後続マシンを抑えきったりと、野田英樹監督を納得させる走りを見せながら、31 周を走り切り、18 位完走のチェッカーを受けました。

「みんな、今日はありがとう。泣いても笑っても明日が今年最後のレースだから、明日は笑顔で終われるように頑張りましょう。明日もよろしくお願いします」とクールダウンラップ中の Juju から無線が入り、ピットのメカニックたちはそれぞれ握手を交わし、明日の健闘を誓いました。

Rd	サーキット	周回数	天気	気温	路温	予選	決勝
11	鈴鹿	31	晴れ	14℃	22℃	22	18

※天気、気温および路面は決勝スタート時



◆ドライバー　Juju のコメント

「金曜日の走り出しは、これまでになく小さな舵角でコーナーが曲がれるマシンに仕上がっていましたが、シビア過ぎてS字コーナーでのタイミングが取りにくかったので、いろいろセットアップ変更を試して動きをマイルドな方向へと持っていきました。予選は A 組のタイムを見て、急遽作戦を変更したのですが、エンジニアもピットアウトのタイミングを素早く計算してくれて、しっかりとタイヤを温めていざアタックという時に赤旗が出てしまい、思い通りの結果が出せませんでした。ペナルティもあってグリッドも 22 番手スタートとなってしまいましたが、最後まで諦めずに頑張ってプッシュできたと思います。スタートが上手く決まらなかったのは、明日に向けてデータをチェックしてもらいます。泣いても笑っても明日が今年最後のレースとなりますので、すべてを出し切って、笑顔で最終戦を終えたいと思っています」

◆監督　野田英樹のコメント

「予選は（赤旗が出なければ）あのままの流れを見たかったですが、やはりまだマシンが決まっておらず、厳しい状況ですね。昨日よりはマシンの仕上がりは良くなっていましたし、予選よりも決勝はさらに良くなっていたのですが、金曜日の出遅れ

が厳しいです。予選で赤旗が出た時に、タイヤの横に別のタイヤを置いたことが、保温にあたるだろうという判断で３グリッド降格のペナルティを受けてしまいました。少しでもできることを、と気休めのつもりで指示したのですが、それは自分の責任です。決勝はドライバーが頑張ってくれました。レース中のタイムも悪くないですし、順位はともかく、良いレースをしてくれたと思います。同じ状況で同じタイミングでタイヤを変えても、同じようなタイムで走れているから、スピードでは負けていないです。トップとはまだ差がありますが、ポイント圏内は狙えるはずです。あとは予選とタイヤの温め方ですね。明日も予選、決勝がありますし、今からデータを確認して最大限の準備を整えて、今年最後のレースに挑みます。皆さん、今日はありがとうございました。明日も応援よろしくお願いします」



◆代表　土沼広芳のコメント

「野田監督とは彼がドライバー時代から一緒にレースをしていたこともあり、良く知った仲ですが、本当に頑張ってチームをまとめようとしているし、ゼロからチームを立ち上げるという大変な仕事をよくこなしていると思います。そんな気持ちがチームスタッフ全員に伝わっており、毎戦、毎戦、まとまってきているのは自分の目から見ればよくわかります。金曜日の走行後も夜遅くまでセットアップに関する議

論を戦わせ、できる限りのトライはし続けていますので、まだまだ求めている結果ではないですが、必ずチャンスは来ると信じています。今日も Juju の積極的な走りは印象的でしたし、明日も彼女が全力を出し切れるよう、みんなで頑張ってマシンを仕上げていきたいと思います。今日も本当に多くのゲストの方々が応援に駆けつけてくれて、とても嬉しく思いますし、感謝しています。ありがとうございました」







◆この件に関するお問い合わせ：マネージメントアドバイザー　チャーリー・チェン　cac@3tree.jp